2026年 3月期 中間決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年11月14日

上 場 会 社 名 株式会社光貴 コ ー ド 番 号 342A 上場取引所 福 URL http://www.koki.inc/

代表者(役職名)代表取締役社長(氏名)斉藤政美

問合せ先責任者 (役職名)執行役員 経営企画室長 (氏名)上間圭

(TEL) 098-870-2102

中間発行者情報提出予定日 2025年12月26日 配当支払開始予定日 -

中間決算補足説明資料作成の有無 : 無中間決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期中間期の業績(2025年4月1日~2025年9月30日)

(1) 経営成績

(%表示は、対前中間期増減率)

	売上高	高	営業利	l益	経常利	益	中間純和	利益
2026年3月期中間期	百万円 3, 303	% 6. 0	百万円 39	% 35. 4	百万円 44	% 50. 2	百万円 20	% 13. 3
2025年3月期中間期	3, 115	-	29	_	29	_	18	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円銭	円 銭
2026年3月期中間期	88. 27	85. 73
2025年3月期中間期	77. 90	_

- (注) 1. 2025年3月期中間期より中間財務諸表を作成しているため、2025年3月期中間期の対前中間期増減率は記載 しておりません。
 - 2. 2025年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益は、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	糸	^総 資産	純資産	E	自己資本比率
		百万円		百万円	%
2026年3月期中間期		1, 479		903	61. 1
2025年3月期		1, 606		927	57. 7
(参考) 自己資本 2	026年3月期中	間期 903	百万円	2025年3月	期 927百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

(0) (1)	17170			
	営業活動による	投資活動による	財務活動による	現金及び現金同等物
	キャッシュ・フロー	キャッシュ・フロー	キャッシュ・フロー	中間期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期中間期	123	△17	△46	410
2025年3月期中間期	78	Δ0	△46	386

2. 配当の状況

		年間配当金				
	中間期末	期末	合計			
2025年3月期	円 銭 0.00	円 銭 189.00	円 銭 189.00			
2026年3月期	0.00					
2026年3月期(予想)		_	_			

(注) 2026年3月期 (予想) については、配当金額は未定のため記載しておりません。

3. 2026年3月期の業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	5	営業利	益	経常利:	益	当期純和	山益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%		%	百万円	%		銭
通期	6, 928	△0. 4	177	36. 1	176	6. 2	110	2. 7	475.	61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無:無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

2026年3月期中間期	240, 000株	2025年3月期	240, 000株
2026年3月期中間期	6,800株	2025年3月期	6,800株
2026年3月期中間期	233, 200株	2025年3月期中間期	233, 200株

- ※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1.	当中	7間決算に関する定性的情報
	(1)	当中間会計期間の経営成績の概況
	(2)	当中間会計期間の財政状態の概況
2.	中間	引財務諸表及び主な注記 ······· 4
		中間貸借対照表
	(2)	中間損益計算書
	(3)	中間キャッシュ・フロー計算書
	(4)	中間財務諸表に関する注記事項9
	(継)	続企業の前提に関する注記) 9
	(株)	主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
		グメント情報等の注記)9
	(重	要な後発事象)

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 当中間会計期間の経営成績の概況

当中間会計期間(2025年4月1日~2025年9月30日)におけるわが国経済は、観光需要の回復や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方で、原材料及びエネルギー価格の高止まりや通商政策を巡る不確実性の長期化に伴い景気減速リスクが高まり、消費者マインドは弱含みとなりました。この結果、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社は「移動体通信事業の収益力強化」「ブライダル事業の品質向上と規模拡大」「経営管理機能の充足」の3つを基本方針として、さらなる業容の拡大とブランド価値の向上に取り組んでおります。

この結果、当中間会計期間における当社業績につきましては、売上高3,303,135千円(前年同期比6.0%増)、営業利益39,285千円(前年同期比35.4%増)、経常利益44,505千円(前年同期比50.2%増)、中間純利益20,584千円(前年同期比13.3%増)となりました。

また、当中間会計期間より、業績評価指標の見直しに合わせて、各報告セグメントの経営成績をより適切に評価するため、セグメント利益のベースを経常利益から営業利益へ変更し、従来、各報告セグメントへ配分していた全社費用を、各報告セグメントへ配分せずセグメント利益の調整額へ計上する方法へ変更しております。

なお、前年同期比については、セグメント利益を営業利益ベースとし、変更後の測定方法により作成したものを 記載しております。

① 移動体通信事業

当社の主力事業となります移動体通信事業におきましては、国内の物価高騰や実質所得の伸び悩みを背景にスマートフォン販売数が漸減する中、通信事業者(以下「キャリア」という。)各社は販売手数料及び支援金等の算定基準をKPI連動で厳格化し、割引及び販促の適正化と併せてキャリアショップの統廃合を推進してきました。しかしながら、直近では店舗減少に伴う商圏カバレッジの低下や来店導線の悪化、顧客接点の希薄化が顕在化した結果、一部キャリアにおいて戦略を見直す動きが生じております。

このような事業環境の下、当社は引き続き体系的な人材育成と配置・シフトの最適化による説明品質・待ち時間・アフターフォロー等の接客KPI改善を通じて、お客様及びキャリア双方からの評価向上と店舗収益力の底上げに努めました。併せて、マーチャンダイジングやトークの改善等によるスマートフォン用アクセサリー・オプションサービス付帯率の向上、自社運営店舗のスクラップ&ビルドによるお客様利便性の向上、商業施設等での体験型販促イベント等の積極的な開催による拡販など、販売体制の強化にも注力いたしました。

これらの取り組みの結果、スマートフォン用アクセサリー等付帯商品を中心に販売数が増加したことで、セグメントの売上高は3,144,948千円(前年同期比7.2%増)となりました。加えて、キャリアによる代理店評価の向上に伴い、販売手数料及び支援金収入が増加したことで、セグメント利益は237,542千円(同24.5%増)となりました。

② ブライダル事業

ブライダル事業におきましては、コロナ禍以降減少が続いていた国内の婚姻件数が2024年には増加へと転じ、停滞していた需要に持ち直しの兆しが見られました。少子高齢化を背景とする結婚適齢期人口の縮小という構造的課題は残存するものの、ブライダル市場全体としては堅調な推移を示しております。他方、2024年の沖縄県内におけるチャペル・フォトウエディングの実施組数は、前年の82.76%(沖縄リゾートウエディング協会調べ)へと減少いたしました。コロナ禍後の反動減や、物価高・円安に伴う国内需要の減少が主因と推察されます。

このような事業環境の下、当社は施行品質の厳正な管理と顧客対応プロセスの改善・強化を通じて、顧客満足度の向上及び婚礼施行数の拡大に努めてまいりました。併せて、将来の業容拡大を見据え、婚礼施設の新規取得を目的としたM&Aについても、適切な投資の範囲内で積極的に検討してまいりました。

沖縄県内のチャペル・フォトウエディング実施組数の前年同期比減少の影響を受け、当セグメントの売上高は 158,187千円 (前年同期比13.0%減) となりました。また、集客に要した広告宣伝費の増加等により管理コストが 増大したことで、セグメント損失は20.872千円 (前年同期はセグメント損失6,100千円) となりました。

- (2) 当中間会計期間の財政状態の概況
- ① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末における流動資産は887,285千円となり、前事業年度末に比べて97,499千円減少いたしました。これは主に、売掛金が100,422千円減少したことによるものです。また、固定資産については592,271千円となり、前事業年度末に比べ29,708千円減少いたしました。この結果、当中間会計期間末における資産合計は1,479,556千円となり、前事業年度末に比べて127,208千円減少しております。

(負債)

当中間会計期間末における負債合計は575,928千円となり、前事業年度末に比べて103,717千円減少いたしました。これは主に、未払法人税等が50,344千円減少、賞与引当金が48,427千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は903,628千円となり、前事業年度末に比べて23,490千円減少いたしました。これは主に、中間純利益の計上等に伴い、利益剰余金が20,584千円増加した一方で、剰余金の配当により利益剰余金が44,074千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は410,586千円となり、前事業年度末と比べて60,587千円増加いたしました。

各キャッシュ・フローの状況とその主な要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は123,725千円(前年同期は78,086千円の獲得)となりました。これは主に、税引前中間純利益33,282千円、売上債権の減少額100,422千円、棚卸資産の減少額49,501千円等を計上したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は17,031千円(前年同期は785千円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出15,292千円を計上したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は46,107千円(前年同期は46,167千円の使用)となりました。これは主に、長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)の返済による支出1,627千円、配当金の支払額44,074千円を計上したこと等によるものであります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	349, 999	410, 586
売掛金	271, 004	170, 582
商品	303, 704	254, 924
貯蔵品	1,678	957
前渡金	79	372
前払費用	23, 751	29, 401
その他	34, 566	20, 460
流動資産合計	984, 785	887, 28
固定資産		
有形固定資産		
建物	556, 959	548, 323
構築物	26, 799	25, 79
工具、器具及び備品	180, 805	182, 85
リース資産	3, 568	3, 568
その他	4, 722	3, 720
減価償却累計額	△453, 398	$\triangle 461, 56$
有形固定資産合計	319, 455	302, 70
無形資産合計		
ソフトウエア	1, 043	2, 93
のれん	11, 730	11, 060
その他	4, 233	4, 233
無形固定資産合計	17, 007	18, 23
投資その他の資産		
長期貸付金	66, 805	62, 49
敷金	115, 163	119, 909
長期前払費用	3, 747	3, 53
繰延税金資産	78, 076	66, 66
その他	21,724	18, 72
投資その他の資産合計	285, 516	271, 329
固定資産合計	621, 979	592, 27
資産合計	1, 606, 765	1, 479, 550

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	23, 453	8, 43
短期借入金	30, 000	30, 00
1年内返済予定の長期借入金	11, 629	20,00
リース債務	609	20
未払金	79, 237	64, 50
未払費用	51, 034	53, 41
未払法人税等	51, 575	1, 23
未払消費税等	9, 337	17, 47
前受金	17, 746	28, 46
預り金	2, 692	4, 88
賞与引当金	71, 869	23, 44
流動負債合計	349, 185	252, 05
固定負債		
長期借入金	188, 371	178, 36
退職給付引当金	71, 434	75, 54
資産除去債務	68, 830	68, 43
その他	1, 823	1, 52
固定負債合計	330, 460	323, 86
負債合計	679, 645	575, 92
純資産の部		
株主資本		
資本金	65, 000	65, 00
資本剰余金		
資本準備金	15, 000	15, 00
その他資本準備金	191	19
資本剰余金合計	15, 191	15, 19
利益剰余金		
利益準備金	6, 500	6, 50
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	860, 725	837, 23
利益剰余金合計	867, 225	843, 73
自己株式	<u>△</u> 20, 298	△20, 29
株主資本合計	927, 119	903, 62
純資産合計	927, 119	903, 62
負債純資産合計	1, 606, 765	1, 479, 55

(2) 中間損益計算書

		(単位:千円)
	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	3, 115, 211	3, 303, 135
売上原価	2, 319, 079	2, 488, 549
売上総利益	796, 132	814, 585
販売費及び一般管理費	767, 122	775, 300
営業利益	29,010	39, 285
営業外収益		
受取利息	372	665
補助金収入	_	5, 220
受取賠償金	1, 300	135
助成金収入	427	_
その他	469	258
営業外収益合計	2, 569	6, 281
営業外費用		
支払利息	1, 955	1,061
営業外費用合計	1, 955	1,061
経常利益	29, 624	44, 505
特別損失		
有形固定資産除却損	0	10, 604
店舗閉鎖損失	<u> </u>	618
特別損失合計		11, 223
税引前中間純利益	29, 624	33, 282
法人税、住民税及び事業税	1, 234	1, 285
法人税等調整額	10, 222	11, 412
法人税等合計	11, 457	12, 698
中間純利益	18, 167	20, 584

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日	(単位:千円 当中間会計期間 (自 2025年4月1日
	至 2024年9月30日)	至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	29, 624	33, 28
減価償却費	23, 738	21, 37
のれん償却額	663	66
前払費用の増減額(△は増加)	△2, 583	$\triangle 5,47$
前払金の増減額(△は増加)	△2, 161	2, 97
賞与引当金の増減額(△は減少)	△34, 351	$\triangle 48,42$
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△1,902	4, 10
受取利息及び受取配当金	△372	△66
支払利息	1, 955	1, 06
売上債権の増減額(△は増加)	87, 359	100, 42
棚卸資産の増減額(△は増加)	△9, 382	49, 50
仕入債務の増減額(△は減少)	△6, 037	$\triangle 16,48$
未払金の増減額(△は減少)	8, 636	△11, 20
未払費用の増減額(△は減少)	$\triangle 4,704$	2, 38
預り金の増減額 (△は減少)	△7, 868	2, 19
未払消費税等の増減額(△は減少)	△9, 024	8, 14
前受金の増減額 (△は減少)	9, 713	10, 71
その他	1, 523	21, 46
小計	84, 825	176, 02
利息及び配当金の受取額	28	35
利息の支払額	△1, 963	△1, 03
法人税等の支払額	$\triangle 4,803$	$\triangle 51,63$
営業活動によるキャッシュ・フロー	78, 086	123, 72
投資活動によるキャッシュ・フロー		<u> </u>
貸付金の回収による収入	4, 581	4, 58
有形固定資産の取得による支出	△5, 166	△15, 29
敷金の差入による支出	△250	
敷金の回収による収入	50	3, 11
無形固定資産の取得による支出	_	$\triangle 2, 24$
資産除去債務の履行による支出	_	$\triangle 2, 32$
投資活動によるキャッシュ・フロー	△785	

株式会社光貴(342A) 2026年3月期 中間決算短信

		(単位:千円)_
	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△10, 002	$\triangle 1,627$
リース債務の返済による支出	△539	△405
配当金の支払額	$\triangle 35,625$	△44, 074
財務活動によるキャッシュ・フロー	△46, 167	△46, 107
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	31, 133	60, 587
現金及び現金同等物の期首残高	355, 199	349, 999
現金及び現金同等物の中間期末残高	386, 333	410, 586

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記) 該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) 該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報及び分解情報

(単位:千円)

	1				(単位・1円/
	報告セグメント			調整額	中間財務諸表
	移動体通信事業	ブライダル事業	計	则走识	計上額
売上高					
顧客との契約から生じる 収益	2, 933, 462	181, 749	3, 115, 211	_	3, 115, 211
その他の収益	_		_	_	_
外部顧客への売上高	2, 933, 462	181, 749	3, 115, 211	<u> </u>	3, 115, 211
セグメント間の内部売上高 又は振替高	_	_	_	_	_
計	2, 933, 462	181, 749	3, 115, 211		3, 115, 211
セグメント利益又は損失 (△)	190, 755	△6, 100	184, 655	△155, 645	29, 010
セグメント資産	604, 082	148, 535	752, 618	754, 799	1, 507, 417
その他の項目					
減価償却費	13, 491	7, 004	20, 495	3, 242	23, 738
のれん償却費	663	_	663	_	663
受取利息	153	190	344	28	372
支払利息	_	_	_	1, 955	1, 955
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2, 959	2, 143	5, 102	1, 404	6, 507

- (注) 1. 調整額の内容は、以下のとおりです。
 - (1) セグメント利益又は損失の調整額△155,645千円は、各報告セグメントへ配分していない全社費用であり、 主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。
 - (2) セグメント資産の調整額754,799千円は、各報告セグメントへ配分していない全社資産であります。全社資産は、主に運用資金(現金及び預金等)、管理部門に係る資産等であります。
 - (3) その他項目の調整額は、各報告セグメントへ配分していない全社費用であります。なお、有形固定資産及び無形固定資産の増加額は主に本社改装に係る資産の増加額であります。
 - 2. セグメント利益又は損失は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報及び分解情報

(単位:千円)

	1				(事庫・111)
	報告セグメント			調整額	中間財務諸表
	移動体通信事業	ブライダル事業	計	 加走假	計上額
売上高					
顧客との契約から生じる 収益	3, 144, 948	158, 187	3, 303, 135	_	3, 303, 135
その他の収益	_	_	_	_	_
外部顧客への売上高	3, 144, 948	158, 187	3, 303, 135		3, 303, 135
セグメント間の内部売上高 又は振替高			_	_	_
計	3, 144, 948	158, 187	3, 303, 135	_	3, 303, 135
セグメント利益又は損失 (△)	237, 542	△20, 872	216, 669	△177, 383	39, 285
セグメント資産	607, 207	145, 561	752, 768	726, 788	1, 479, 556
その他の項目					
減価償却費	11, 970	6, 913	18, 884	2, 489	21, 373
のれん償却費	663	_	663	_	663
受取利息	135	172	308	357	665
支払利息				1,061	1,061
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	11, 941	4, 373	16, 315	_	16, 315

- (注) 1. 調整額の内容は、以下のとおりです。
 - (1) セグメント利益又は損失の調整額△177,383千円は、各報告セグメントへ配分していない全社費用であり、 主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。
 - (2) セグメント資産の調整額726,788千円は、各報告セグメントへ配分していない全社資産であります。全社資産は、主に運用資金(現金及び預金等)、管理部門に係る資産等であります。
 - (3) その他項目の調整額は、各報告セグメントへ配分していない全社費用であります。
 - 2. セグメント利益又は損失は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 - 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の基礎および測定方法の変更)

当中間会計期間より、業績評価指標の見直しに合わせて、各報告セグメントの経営成績をより適切に評価するため、セグメント利益のベースを経常利益から営業利益へ変更し、従来、各報告セグメントへ配分していた全社費用を、各報告セグメントへ配分せずセグメント利益の調整額へ計上する方法へ変更しております。

なお、前中間会計期間のセグメント情報については、セグメント利益を営業利益ベースとし、変更後の測定 方法により作成したものを記載しております。 (重要な後発事象) 該当事項はありません。